

## 6 地域別状況

事業所数は、四日市生活創造圏が18.2%で最も多く、次いで伊勢志摩生活創造圏の18.2%、津・久居生活創造圏の14.4%となりました。

増減率でみると、すべての地域で減少し、尾鷲生活創造圏が最も減少しました。(表13、図18)

表13 生活創造圏別事業所数

	平成14年		平成16年		
	事業所数	構成比(%)	事業所数	構成比(%)	増減率(%) (16年/14年)
三重県	24,769	100.0	23,265	100.0	▲ 6.1
桑名・員弁生活創造圏	2,515	10.2	2,338	10.0	▲ 7.0
四日市生活創造圏	4,535	18.3	4,236	18.2	▲ 6.6
鈴鹿・亀山生活創造圏	2,439	9.8	2,314	9.9	▲ 5.1
伊賀生活創造圏	2,191	8.8	2,110	9.1	▲ 3.7
津・久居生活創造圏	3,589	14.5	3,344	14.4	▲ 6.8
松阪・紀勢生活創造圏	3,216	13.0	3,002	12.9	▲ 6.7
伊勢志摩生活創造圏	4,434	17.9	4,225	18.2	▲ 4.7
尾鷲生活創造圏	992	4.0	905	3.9	▲ 8.8
熊野生活創造圏	858	3.5	791	3.4	▲ 7.8

従業者数は、四日市生活創造圏が21.7%で最も多く、次いで津・久居生活創造圏の16.1%、伊勢志摩生活創造圏の15.3%となりました。

増減率でみると、伊勢志摩生活創造圏のみ増加しました。残りの8地域では減少し、尾鷲生活創造圏が最も減少しました。(表14、図18)

表14 生活創造圏別従業者数

	平成14年		平成16年		
	従業者数(人)	構成比(%)	従業者数(人)	構成比(%)	増減率(%) (16年/14年)
三重県	151,966	100.0	146,728	100.0	▲ 3.4
桑名・員弁生活創造圏	15,894	10.5	15,527	10.6	▲ 2.3
四日市生活創造圏	33,936	22.3	31,868	21.7	▲ 6.1
鈴鹿・亀山生活創造圏	16,232	10.7	15,910	10.8	▲ 2.0
伊賀生活創造圏	13,523	8.9	13,017	8.9	▲ 3.7
津・久居生活創造圏	24,464	16.1	23,585	16.1	▲ 3.6
松阪・紀勢生活創造圏	18,406	12.1	17,616	12.0	▲ 4.3
伊勢志摩生活創造圏	22,170	14.6	22,383	15.3	1.0
尾鷲生活創造圏	4,196	2.8	3,716	2.5	▲ 11.4
熊野生活創造圏	3,145	2.1	3,106	2.1	▲ 1.2

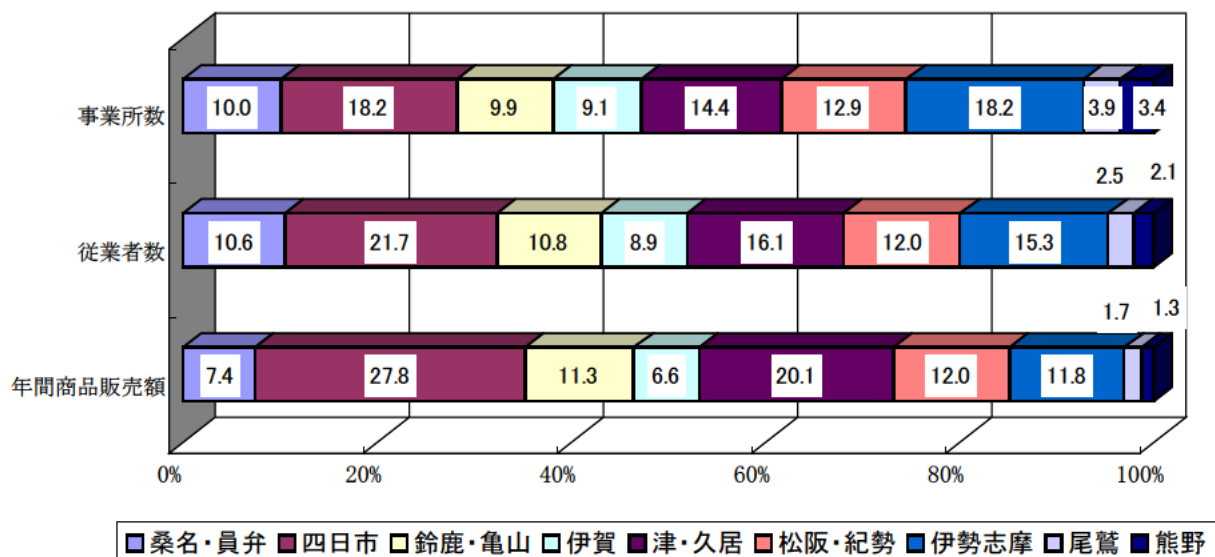
年間商品販売額は、唯一1兆円を超える四日市生活創造圏が、27.8%で最も多く、次いで津・久居生活創造圏の20.1%、松阪・紀勢生活創造圏の12.0%となりました。

増減率でみると、津・久居生活創造圏が最も増加し、尾鷲生活創造圏が最も減少しました。(表15、図18)

表15 生活創造圏別年間商品販売額

	平成14年		平成16年		
	年間商品販売額 (百万円)	構成比 (%)	年間商品販売額 (百万円)	構成比 (%)	増減率(%) (16年/14年)
三重県	3,828,670	100.0	3,843,820	100.0	0.4
桑名・員弁生活創造圏	293,465	7.7	285,338	7.4	▲ 2.8
四日市生活創造圏	1,069,467	27.9	1,068,690	27.8	▲ 0.1
鈴鹿・亀山生活創造圏	421,683	11.0	433,694	11.3	2.8
伊賀生活創造圏	252,569	6.6	254,924	6.6	0.9
津・久居生活創造圏	747,880	19.5	772,759	20.1	3.3
松阪・紀勢生活創造圏	472,999	12.4	460,455	12.0	▲ 2.7
伊勢志摩生活創造圏	451,611	11.8	453,668	11.8	0.5
尾鷲生活創造圏	70,160	1.8	63,952	1.7	▲ 8.8
熊野生活創造圏	48,836	1.3	50,341	1.3	3.1

図18 地域別構成比



1事業所あたり年間商品販売額をみると、四日市生活創造圏で最も多く、次いで津・久居生活創造圏、鈴鹿・亀山生活創造圏となりました。

増減率でみると、熊野生活創造圏をはじめ8地域で増加し、尾鷲生活創造圏では減少しました。(表16)

表 1 6 生活創造圏別 1 事業所あたり年間商品販売額

	平成14年		平成16年		
	年間商品販売額 (百万円)	指 数	年間商品販売額 (百万円)	指 数	増減率(%) (16年/14年)
三重県	154.6	100.0	165.2	100.0	6.9
桑名・員弁生活創造圏	116.7	75.5	122.0	78.9	4.6
四日市生活創造圏	235.8	152.5	252.3	163.2	7.0
鈴鹿・亀山生活創造圏	172.9	111.8	187.4	121.2	8.4
伊賀生活創造圏	115.3	74.6	120.8	78.1	4.8
津・久居生活創造圏	208.4	134.8	231.1	149.5	10.9
松阪・紀勢生活創造圏	147.1	95.1	153.4	99.2	4.3
伊勢志摩生活創造圏	101.9	65.9	107.4	69.5	5.4
尾鷲生活創造圏	70.7	45.7	70.7	45.7	▲ 0.1
熊野生活創造圏	56.9	36.8	63.6	41.2	11.8

(指数は三重県全体を100とした場合のそれぞれの比率をあわらす。)

従業者1人あたり年間商品販売額をみると、四日市生活創造圏で最も多く、次いで津・久居生活創造圏、鈴鹿・亀山生活創造圏となり、四日市生活創造圏をはじめ4地域が県全体の従業者1人あたりの年間商品販売額を超えています。

増減率でみると、津・久居生活創造圏をはじめ7地域で増加し、桑名・員弁生活創造圏、伊勢志摩生活創造圏で減少しました。(表17)

表 1 7 生活創造圏別従業者1人あたりの年間商品販売額

	平成14年		平成16年		
	年間商品販売額 (百万円)	指 数	年間商品販売額 (百万円)	指 数	増減率(%) (16年/14年)
三重県	25.2	100.0	26.2	100.0	4.0
桑名・員弁生活創造圏	18.5	73.3	18.4	72.9	▲ 0.5
四日市生活創造圏	31.5	125.1	33.5	133.1	6.4
鈴鹿・亀山生活創造圏	26.0	103.1	27.3	108.2	4.9
伊賀生活創造圏	18.7	74.1	19.6	77.7	4.9
津・久居生活創造圏	30.6	121.3	32.8	130.0	7.2
松阪・紀勢生活創造圏	25.7	102.0	26.1	103.7	1.7
伊勢志摩生活創造圏	20.4	80.8	20.3	80.4	▲ 0.5
尾鷲生活創造圏	16.7	66.4	17.2	68.3	2.9
熊野生活創造圏	15.5	61.6	16.2	64.3	4.4

(指数は三重県全体を100とした場合のそれぞれの比率をあわらす。)